



「日本語は難しい」～ 漢字の学習って、何を勉強するの? ～

本日は、授業参観・学級懇談会の二回目となります。お忙しい中、ご参加ありがとうございます。

さて、先日(11/2)は、「漢字学習のスタート」として、学校で指導対象とする漢字の数や、漢字学習の導入として扱う「数詞」の複雑さ、難しさについて述べました。今回は、以前にも取り上げたことがあります。具体的に「上下」の漢字を例に漢字学習として何を勉強するのか、その内容を簡単に整理し、漢字(学習)の難しさについて考えてみたいと思います。

【(例)「上下」に係る漢字の特徴(指導内容)について】

- (1) これは二つの漢字が組み合わされた「熟語」です。
- (2) この中の「上」だけを取り上げてみます。
 - ① まず、この文字ですが、その成り立ちとして、数や性質など、形に表すことができないものを点や線の組み合わせで表した「指事文字」です。指事文字には他に「中」や「立」などもあります。(→「漢字の成り立ち」)
 - ② また、読み方として、「うえ」「ジョウ」という「音読み」「訓読み」の2種類があります。(→「漢字の音訓」)
 - ③ 「送り仮名」を付けてみると「上る」や「上がる」と、また違った読み方が出てきます。しかもそれぞれに意味が異なります。(→「送り仮名」「漢字の意味」)
 - ④ さらに、「のぼる」という読み方には、「登る」や「昇る」もあり、さらにそれぞれに意味が異なります。(→「同音異字」)上記のことは、「上」だけでなく「下」についても、まったく同様のことがいえます。
- (3) さらに、熟語の構成ですが、「上下」は、「高低」や「強弱」と同様に「意味が対になる漢字の組み合わせ」です。(→「漢字の組み合わせ」)



〈ある日の授業から〉

※ ゴシック体の「 」の内容が、漢字の授業で実際に取り上げる言葉です。

数詞と同様に、「上」も「下」も小学1年生で学習する漢字です。このような簡単と思われる漢字を取り上げても、実際の授業で指導する内容はたくさんあります。また、送り仮名が異なると意味も異なるように、複雑さもからんできます。これが漢字を難しく印象付けている大きな理由だと思われます。

もちろん、実際の指導においては、上例の「熟語」や「同音異字」、「漢字の組み合わせ」などのすべてを、小学1年生で取り上げるわけではありません。例えば、「送り仮名」は小学2年生で、「漢字の音訓」は小学3年生で、「熟語」は小学4年生でというように、段階を経ながら中学校が終わるまで繰り返し学習していきます。また、その中で「貝」と「見」、「人」と「入」、「右」と「石」等、間違いやすい“形が似ている漢字”に注意させたり“書き順”を取り上げたりするなど、漢字に付随する指導も行っていきます。

このように漢字の習得には、それに伴うたくさんの中身があります。それは学ぶ子どもたちの大変さであり、実は、指導する側の大変さでもあります。